
魔王勇者

ユーヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王勇者

【著者名】

ゴーワ

【あらすじ】

勇者と魔王と魔王と姫様のその他の話。

「よう、俺は勇者だつた。勇猛果敢に魔物たちをなぎ払い、さらわれた姫を助けるために魔王の城へと進むのだ。

「よくぞここまでたどりついたな、勇者よ」

「姫様を返せ、魔王！」

魔王との戦闘である。俺は魔王を斬りつけ、必殺技を使う。魔王も俺を殴りつけ、魔法を使う。

激闘の末、俺は魔王に勝利した。

「これまでだ、魔王。正義は勝つのだ」

魔王の喉頸に剣の切つ先をつきつける。

「そうだお前の勝ちだ、勇者よ。だがお前は私を殺してどうしようだ？」

「姫様を助ける」

「姫様を助ける？ ただそれだけのためにここまで来たといつのか？」

魔王が嘲笑うかのように言ひ。

「そうだ。お前のような悪は滅さねばならないのだ」

「悪？ 私が悪とはよくぞ言つたものよ…」

俺は剣を、魔王の右肩に刺した。

「お前が悪以外の何だと言つのだ！」

肩を刺された魔王は痛みを押し殺したように言ひ。

「私からすれば私は正義だ。今まで私のしてきた事すべてが正義であるのだ」

「なら俺が悪だと？」

「正義の反対が悪だと思つたか？ 正義の反対は、これもまた正義なのだ。確たる悪など存在しないし、またそんな正義も存在しないのだ。正義の対が悪などとは、真に稚拙な考え方よ」

俺は魔王の左肩を突き刺す。

「よく喋る魔王だな。その減らす口、切り裂いてやるつが」

「まあよく考えてみる事だな。魔王と言う絶対悪を失つたらどうなるかを。魔王と言う悪がいるからこそ人々は団結し、協力していられるのだ。絶対悪を失つた世界は見苦しいぞ。人が争いはじめるぞ。それでもお前は私を殺すというか？」

「だったら、俺が魔王になつてやるよ」

魔王の喉に剣を突き刺した。レベルが上がった。

それから俺は姫様を助け出し、国に凱旋した。

王室に呼ばれ、栄誉を称えられた。褒美の一つとして名剣を姫様から受け取つた。

その剣を鞘から抜き出し、前に立つてゐる姫様の喉頸に突き刺した。王室は一瞬静まり返つた。どうやら状況が飲み込めないようだ。

国王が叫ぶ。

「勇者め気が狂つたか！」

続々と兵が現れ、俺を取り囲む。それを俺は片つ端から殺していく。勇者をなめるなよ。お前らがこの国に引き籠もつてゐる間、俺はずつと戦つていたんだぞ。レベルが違うんだよ、雑魚が。

そして最後の兵を殺した。

「どうしてしまつたというのだ、勇者よ。お前はいつから悪に染まつてしまつたのだ？」

国王が震える声で尋ねてきた。

「俺が悪だと？俺はいつだって正義だ！」

国王を殺した。レベルが上がつた。

母国を制した俺は隣国に手を出した。引き籠もりが勇者に勝てるわけもなく、いとも簡単に制圧できた。そんな感じで10のほど回国を征服した。

そんな事をしたせいか俺は魔王を呼ばれるようになつていた。悪い気分ではなかつた。むしろいい気分だ。

20、50、100とどんどん国を征服していった。

そして全世界の国をすべて征服した。そのとき俺は魔王ではなく、王と呼ばれていた。

悪で始まつた事が、正義になつていていた。

俺は王。魔王ではないのだ。

誰もが崇め、讃え、尊敬する王なのだ。

俺が正義だつた。

正義は俺だつた。

これは揺るがない事実だ。

(後書き)

呼んでくれた方ありがとうございます。
感想をもらえたうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0658g/>

魔王勇者

2010年10月14日16時29分発行